

「インクルーシブな学校運営」通信 第12号

カリキュラム・マネージャー

「高校進学の実状を考えると興味深い」 公開研参加者から感想

12月25日(木)、中高養公開研究会がハイブリッド開催され、更農教職員も含め70名(オンライン57名)を超える参加者がありました。研究会は「インクルーシブな学校運営モデル事業」の報告会も兼ねており、終了後のアンケートには15人の方から「モデル事業」に関する感想や質問をいただきました。

オンラインによる取組や各教科の授業に関するものが多く、「中学校の特別支援学級を卒業して高等学校に進学している生徒も多い中、非常に興味深い取組だと感じています。」といった声もありました。

また、教育課程上の位置付けや評価に関する質問を多くいただきました。

(問) 十勝管内特別支援学校関係者

教科における交流学习を行うときの目標設定の留意点など詳しく知りたいです。例えば理科の授業であれば、やはり理科の教科目標の達成を狙うのか。コミュニケーションなど自立活動のねらいだけになってよいのかなど。相手の学校(教員)との目標やねらいのすり合わせ方はどうしているのか。

(答)

「オンライン共同学習」は、更農は学校設定教科「カルチベーション」の指導計画に基づいており指導計画に示された目標に準拠して評価しています。一方、中高養は、自立活動を合わせて実施している「体力づくり」の時間で実施し、自立活動のねらいを踏まえて、その都度目標を設定し評価しています。

音楽や美術、書道などの教科における「交流及び共同学習」は、いずれかの学校の既存の教科の指導計画に基づいて実施しており、指導計画に示された目標に準拠して評価しますが、当該教科に参加する連携校の生徒については、「交流及び共同学習」のねらいのうち「豊かな人間性」の育成にかかわる目標をその都度設定し評価しています。

(問) その他参加者

「交流及び共同学習」の取り組みが進んでいることがよく分かりました。また、教員の研修を合同で行うという取り組みは、オンラインが進んだことが、大きいと感じます。高等学校(後期中等教育段階の学校)間ならでの、共通するテーマが存在するということが、研修の意義に繋がっているように思いました。他の高等学校や特別支援学校も、例えば、オブザーバーとして、参加できるとよいのではないのでしょうか。研修時間の設定を両校で揃えることにご苦労なかったでしょうか。

(答)

ミニ研修「共に学ぶ会」は両校コーディネーターとカリキュラム・マネージャーが日時を調整し、テーマを決定しています。

昨年度1年間の試行を経て現在の回数、放課後の実施などに至っています。テーマは実際に在籍する生徒の指導上の課題を取り上げるようにしています。

「こだわり」の意味を考える =第6回「共に学ぶ会」=

1月19日（月）、「マイルールにこだわる生徒の事例と対応」をテーマに「共に学ぶ会」が行われました。

まず、Coから「こだわり行動」に対する「基本的な対応」について説明を受けた後、「体育のバスケットボールの試合で、1点差で負けたことにイライラを抑えることができず、暴言を吐いたり、廊下をうろうろ歩き回り壁を叩き続けている。」という事例について、生徒の内面や教師の対応について検討しました。

どちらの学校にも今回の事例と類似した傾向をもつ生徒がおり、実践的な研修になりました。



基本的な対応

※ 資料（Co通信「ふきのとう」）から抜粋

A 段階的に行動を変化させる

「こだわりをなくす」のではなく、「こだわりと上手く付き合う方法を考える」という支援の視点を大切にしましょう。不適切な行動を、望ましい行動へと徐々に変化させることを目標とします。また、なぜその活動を行うのか、その理由を**本人が分かる表現で説明します**。（こだわりは強みにもなる!）

B 切り替えるための工夫をする

スケジュールや活動内容を事前に示すとともに、活動の約束事やルールの確認を**事前に行う**。突然声を掛けられると、頭が混乱しやすくなってしまうことがあります。本人が自分の中で明確なイメージを持てるように、指導者が環境を整えていきましょう。（パターンAを試して上手くいかなければパターンBに変更するなど）

C 自己理解、他者理解を整理する

本人がなぜそれにこだわるのか、譲れない理由を丁寧に聞き取り、大人が介入しながら**本人の気持ち**を**正しく整理**することが大切です。また、その行動を取ったときに周囲がどんな状況にあるかを客観的・具体的に伝えることで、自分の行動を振り返られるよう支援します。

3学期の「交流および共同学習」

中高養「地域貢献学習」において、更農1年生と共同で、迷路やスノーアートを作成する計画が進んでいます。また、中高養の音楽、美術、体育、普通科職業でも、更農生が参加する「共同学習」を実施する方向で調整中です。

いずれも、「受け入れ可能な教育活動」を活用したもので、3学期も多様な「交流および共同学習」が展開されます。

「モデル事業」今後の予定

- 2月9、10日 地域貢献学習（更農生は1日目のみ）
- 2月16日 両校の合同委員会
- 2月19日 B地区連携協議会
- 2月20日 R7中間成果報告会（東京）
- 3月第1、2週 中高養「共同学習」
- 3月16日 「共に学ぶ会」